

## 報告2 平成30年度相互交流を生かした人材育成講座の実施結果について

## 1 概要

- (1) 日時 平成30年11月20日(火) 14:20~15:30
- (2) 場所 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所  
横須賀市長瀬3-1-1
- (3) 参加者 19名
- ・ネットワーク会議 1名
  - ・環境活動団体等 5名
  - ・港湾部 9名
  - ・事務局 4名
- (4) スケジュール
- 担当：管理調整・防災部 企画調整・防災課  
課長補佐 増門 孝一 氏
- ①14:20~15:00 講義
- 「よこすかにおけるブルーカーボンの活用」  
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所  
港湾空港技術研究所沿岸環境研究領域  
沿岸環境研究グループ長 桑江 朝比呂 氏
- ②15:00~15:30 施設見学
- ・干潟実験施設
  - ・大規模波動地盤総合水路

## 2 講座概略

## (1) 講義「よこすかにおけるブルーカーボンの活用」

ブルーカーボン(海草藻場や植物プランクトンがCO<sub>2</sub>を吸収・固定し、大気中に放出せずに蓄えている)等について解説していただいた。横須賀市では走水で炭素貯留の調査が行われており、走水ではCO<sub>2</sub>を吸収しているという調査結果であった。また、大型海草の吸収力が特に高いとのデータがあるため、護岸などに大型海藻を育て、「海の森」を作ることがCO<sub>2</sub>吸収に有効であるという説明があった。

横浜市では、「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」を行っている。

国際的にも、ブルーカーボンを活用した新たな吸収源対策の検討が進められている。

## 【質疑応答など】

- ・相模湾側は磯焼けが酷く、藻が育たない。  
→磯焼けや黒潮については、他の地域の例で説明。藻が育つ環境を人工的に作り、場づくりを含め研究している。
- ・陸地の除草薬がアマモ場に影響するのではないか  
→詳しくはないが、あるとすれば、微細生物に影響しているのかもしれない。

## (2) 干潟実験施設・大規模波動地盤総合水路を見学

### ①干潟実験施設

干潟の一部を切り取り再現したもの。久里浜湾の海水を引き入れて人工的な干潟を再現している。実験は1995年から継続しており、24年間の間に多くの生物が住み着いている。また、干潟に飛来するトウネン（シギ科）の生態も調査している。

### ②大規模波動地盤総合水路

改修中のため、映像による解説。世界最大の波、3,5mの風波と最大2,5m相当の津波を起こすことができる大型の水路で、世界的にも稀な実験施設。ほぼ実規模の実験を行うことができる。50mの津波で人は流されてしまう。

## 3 考察

交通機関の時間に合わせた関係で、限られた時間の中での講座となった。講義では、市内（走水）での炭素貯留結果の例もあり、とても興味深かった。市内等で環境に関する活動を行っている方や、業務に関係する方から質疑もあり、知識が深まる講座であったのではないかと考える。沿岸環境研究グループ長桑江氏は、横須賀在住でもあるため、この講座がきっかけとなり今後の活動等につながっていくことを期待する。

